

Nadeshiko-no-Kai Report



東京学芸大学 附属小金井小学校 ● 同窓会

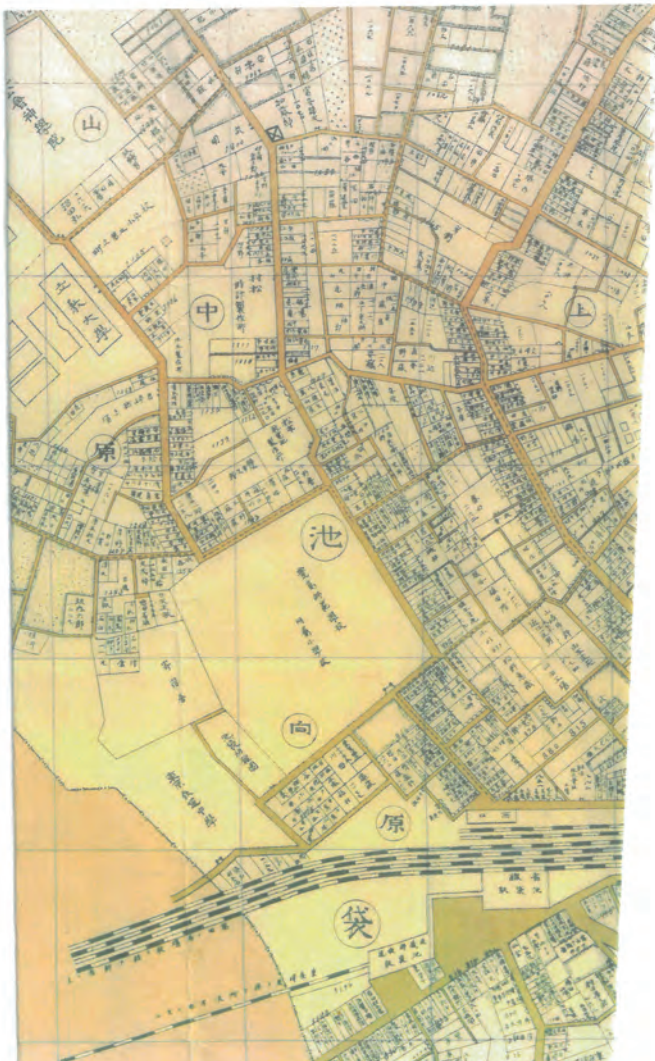
撫子の会

小学校は
エンピツの
匂い

会報

24

号



特集：ぶらり探訪（豊島編）

同窓生がぶらぶら歩いて附属小の謎を解き明かす「ぶらり探訪」がスタートしました。

その記念すべき第一回は、

豊島小学校があった池袋西口公園を訪ねました。

あわせて映像による記録の保管、Youtube 上での公開も行っていく新たなプロジェクトです。

池袋駅西口に豊島小の面影を探して

理事 柴田通彦

理事 保坂健二

2022年10月29日（土）の撫子の会総会は未だコロナ禍が止まず、3年続けてリモート開催を余儀なくされたため、かつて豊島小学校があった池袋西口の今をレポートし、オンライン配信しようということになりました。

豊島小最後の昭和39年生まれの保坂理事が構成、調査、脚本、撮影、編集という一人五役を務め、豊島に通っていた柴田理事が現地レポーターとなって、現在の池袋の模様を伝えようという段取りです。池袋駅西口前に戦前は豊島師範、戦後は昭和39年まで豊島小学校は存在しましたが、特に戦後は戦災で焼け野原となった西口一帯がバラックの飲み屋街となり、その間を縫って児童が駅から校門に至るという今では考えられないような環境下での通学でした。



「池袋駅西口からバラック越しに見える校舎・昭和28（1953）年」提供：毎日新聞社

[当時のスロープがそのままに]

10月のロケ当日西口駅前に立ってみると、コンクリート造りの校舎や第一から第三まであった運動場や体育館の跡にはきれいに整備された池袋西口公園が広がり、その奥には芸術の殿堂「東京芸術劇場」が大きなその姿を見せています。特に西口公園は、4年前に野外劇場も完成し、「グローバルリング」と名前が付けられています。



まずは野外劇場の脇に移設された豊島小学校の記念碑を紹介しようとしたところ、当日行われる野外イベントの仕込みで撮影できないというハプニングがありました（後日別途収録）、かつて正門があったあたりから中庭のような第一運動場やそれに続く体育館、そして小金井小学校に移設された豊島のイチョウの木のあったあたりを巡ります。更に芸術劇場の建物に沿って第二、第三運動場のあった場所を歩くと、当時一段低くなったところにあった第三運動場の名残で、今でも芸術劇場西端の脇道はスロープになっています。

そこからやや東側に回り込むと「区立元池袋史跡公園」が一角にあります。その辺りにはかつて池があり、フクロウが豊島区の鳥で数多く生息していたそうで、それが池袋の地名の由来になったとか。公園にはフクロウの像もあり、改めて「なるほど」と納得です。

さて肝心のレポーターぶりはというと、保坂理事が作ってくれた台本通りにセリフを発しようとする口詰まったり、忘れてたりとNGの連続で、仕舞には「思ったままに喋ってください」と言われて何とか格好をつけたという次第でした。

[今でも健在、あのトンネル]

一通り学校跡地を一周した後は、学校生活の中で思い出の場所を訪ねてみることに。当時「映画教室」といって時々映画館まで行って鑑賞するという行事があり、主に西口にある映画館でディズニー映画を見たりしたのですが、時には東口の現在のサンシャイン通り周辺の映画館まで足を延ば

「豊島師範通り」

豊島昭和 30 年卒 松田 隆

すことがあったのです。その際西口から東口へ JR（当時は国鉄）と東武鉄道の線路軌道下を 70 メートル位通り抜ける狭いトンネルがあり、これが薄暗くてしょんべん臭く、傷痍軍人さんも居たりだったので足早に通り抜けたものでした。何とこのトンネルが現在でも現役で使われているのです。正式には雑司が谷隧道というのですがウイロードと洒落たネーミングがなされ、明るい照明で壁はカラフルに彩られていますが基本的な構造は変わらず当時を思い起こさせる雰囲気はありました。



当時はコンクリの打ちっばなし、薄暗くて臭いトンネルでした

昭和 39 年に池袋から小金井に移転して半世紀以上、街も変わって当然ですが、ロケ時に西口公園の一角で車座になって酒を酌み交わしているホームレス風のグループを見ると、池袋の場末感は変わらないなと感じました。



「小金井移転後も池袋西口に残る校舎・校庭全景・昭和 41(1966)年」提供：朝日新聞社

※「池袋西口公園～豊島小学校の跡を歩く～」は、Youtube で見ることができます。

<https://www.youtube.com/watch?v=9JsRyOOGIBE>



私は 1942 年生まれで、昨年傘寿を迎えた 80 歳の翁です。1955 年 3 月、東京学芸大学付属豊島小学校（池袋）を卒業し、1958 年 3 月同小金井中学校を卒業した OB。今回投稿したのは、過日の「撫子の会」会報で、大鹿晏弘君の寄稿文を見たことに起因する。「池袋駅前豊島師範通り」を描いた絵が豊島区役所に保管されているらしいと云うものだった。

大鹿君とは現在も深い親交のある小・中学校時代の同級生。豊島区役所に絵を見に行こうと云うことになり、同行者が 6 人程集まった。同級生の中で豊島区役所に強い青木輝彦君が調べてくれ、区政 90 周年特別展「豊島大博覧会」の会場である区立郷土資料館に展示されることが判った。



11 月 17 日に皆で行き、博覧会で判ったことは、我々が小学校時代を過ごした豊島区の池袋駅周辺の詳細な地図や風景と豊島区の歴史。校舎そして校庭や運動場が記されており、学校近くの材木屋（同行のうちの 1 人の実家）も当時の地図で見つけることができた。

豊島師範は 1909 年に池袋で開設され、その一部として付属小学校が併設されていた。私達が通学した頃は、小学校の他に幼稚園と中学校があった。高校や大学は別の場所に移転していたのだろう。

肝心の「池袋駅前豊島師範通り」は、春日部たすく画伯により1928年に描かれた10号程度の油彩。我々が生まれるずっと前の戦前の池袋が描かれており、記憶と違うのは当然だった。

その後、オソ昼を皆で食べながら約70年前の思い出に花が咲いた次第。別れ際には池袋の東京芸術劇場近くの豊島記念碑で記念撮影(左から3人目が筆者)

蛇足ながら、私が趣味で絵を描いていることをお話したい。毎年100号の大きさの油絵に挑戦し、国立新美術館での展示会に出しています。その折に豊島小学校の同級生で絵に関心のある友人に案内を出しているが、コロナ禍でありながら、7人集まってくれた。

クラス会はコロナのためにここ3年開催していないが、毎回20人近くが必ず集まる結束ぶり。多くの者が豊島卒業を誇りに思い、撫子の花にも愛着がある。



至楽荘にて

豊島昭和19年卒 渡辺 貞夫

会誌巻頭に至楽荘の記事が有り、大変懐かしく拝見しました。90年続いているとは驚きです。ここで泳ぎをみっちり教えられたので、何時海へ放り込まれても沈没はしないと自信を持ちました。(第2次大戦始まりの翌夏、翌々夏ですからそんな気合を入れられました。)

勤め人は退職し時間が自由になったので、1995年に至楽荘をお借りして同窓会を開きまし

た。その時の記念写真を遅ればせながら報告代わりにお送りします。会誌23号1頁の写真と背景の岬の稜線が完全に一致しているので、ほぼ同じ場所で写したのでしょう。写っている面々(特に男性)は連絡が途絶えており鬼籍に入られた方が多いようです(私が撮影したので私は写っておりません)。ご存命の方100まで頑張りましょう。



次回、「ぶらり同窓会」の予告

～たとえば、秀文堂は、追分から小金井に転居してきたことを知っていますか?～

11月11日(土)に開催されます「ぶらり同窓会」にて、「ぶらり探訪」の第2弾に予定されています「追分編」の情報交換会を行います。あなたの残したい追分の映像や思い出・伝説のポイントを教えてください。

来年の同窓会までに理事会メンバーが映像化したいと思います。秘蔵の資料や写真の提供でも結構です。よろしく願いいたします。



※今年の「ぶらり同窓会」は、11月11日(土)14時より、母校にて開催いたします。詳細は、別紙をご参照ください。

※Web上でのハイブリット開催も計画中。詳しくは、撫子の会HPをご確認ください。

人の縁、つながりは不思議なものです。ひとつのラジオ番組がつなぎ、そして、新たな展開を生んだ物語をご紹介します。(編集部)

同窓会のつながりが 40年経って・・・

小金井昭和 52年卒 保坂 健二

今から40年以上前、確か1981年の始めでした。私は高校生の時に当時、小金井小の藤原先生に「小学校の同窓会を開催するから手伝うように」と呼ばれて以来、この撫子の会に関わるようになりました。

当日は残念ながら雨が降ってしまい、第一運動場に露店を出す予定が、食堂で開催したことをよく覚えています。その時に先頭に立って様々な企画を立て、10代の我々を引っ張ってくれたのが前会長の佐々智樹さんでした。当時、佐々さんはラジオのニッポン放送で、オールナイトニッポンなどのディレクターを務められていて、小中高と放送委員だった私にとっては眩しい存在の先輩でした。同窓会を手伝ったご褒美的に、ニッポン放送のノベルティをいくつか貰って、悦に入って学校に持って行ったことも思い出されます。

その2年後、1983年に、佐々さんがYMOの高橋幸宏さんのオールナイトニッポンを担当するという話を聞きました。浪人していた私ですが、火曜深夜、ダイヤルを1242に合わせて聴きました。お洒落で知られた幸宏さんですから、正直なところ、オールナイトニッポンの他の曜日とはテイストが違うなと感じました、何しろ、他の曜日のラインナップは中島みゆき、タモリ、ビートたけし、笑福亭鶴光です。幸宏さんのオールナイトニッポンが放送されたのは9か月間で、YMOの散開とともに終了しました。

大学を卒業してから、私もニッポン放送に就職することとなり、図らずも佐々さんの後輩となり

ましたが、佐々さんは既にラジオを離れ、レコード会社にいらっしゃったので、お仕事もご一緒することはありませんでした。しかも私は放送の現場からは一歩下がったところで碌を食む会社人生を送り、ここ数年はアーカイブを管轄するセクションに籍を置いていました。

会社人生もそろそろ終わりに近づいた今年1月、高橋幸宏さんの訃報がもたらされました。

ニッポン放送ではオールナイトニッポンのパーソナリティを務めた方です。何か、追悼番組ができるのではないかと音源は無いの？とアーカイブ担当の私のところに話が回ってきました。40年前の番組で、録音は1本も残っていません。しかも、当時の放送を知っている人も社内に数人しかいません。しかし、私にとってはリアルタイムで聞いていた番組で、しかも「当時の担当ディレクターも分かりますし、連絡つきますよ」(笑)。自分は番組のディレクターでもプロデューサーでもありませんが、これは自分が作らないといけない、という使命感にかられました。企画書を書いて、twitterで当時の音源のお尋ねを呼びかけました。すごい反響でした。あっという間に、当時の放送の9割がカセットテープで集まったのです。ファンの思いは凄いものだと思います。

全部聞いて、構成も考えて、使う音源も抜き出して編集までやりました。もちろん、佐々さんに連絡を取り、当時の企画や起用の意図をリモートで伺いました。あの番組のなんとなく感じる違和感の正体も聞きたかったのです。佐々さんは私が「お話を伺いたい」という願いを、番組制作や構成のための参考にされるものだと思われたようですが、しっかり録音して番組で使わせていただきました。

番組は寄せられた音源をふんだんに使って2月15日に1時間50分の特番「オールナイトニッポン Premium 高橋幸宏さんを偲んで」として放

送されました。

番組はおかげさまで明るい同窓会のような形になり、多くの方からも「パーソナリティ愛にあふれた番組」という感想を頂き、第60回ギャラクシー賞ラジオ番組部門奨励賞受賞というお褒めを頂くことも出来ました。

あの、雨の日の食堂での同窓会からお世話になった伏線を40年経って回収しているような、先輩・後輩という関係は昔も今も変わらないものの、小学校同窓会を媒介にして、今度はようやくお仕事で、先輩でもありリスナーとして聞いていた番組のディレクターさんと関わったというのは40年前の自分に教えてやりたいような気分でした。

人と人のつながりは面白いものです。いい仕事をさせていただいた、同窓会のつながりに感謝です。

人との繋がり大切さ

小金井昭和 39年卒 佐々 智樹

「撫子の会」が正式に発足する前、小金井小学校だけでどうにか同窓会を作れないかと尊敬していた両角先生からお話をいただいて、川田紀雄さん達と一緒に小金井小学校同窓会を始めてから既に半世紀近く経ってしまいました。

今回 YMO で世界的に活躍した高橋幸宏さんが逝去され、彼を偲ぶオールナイトニッポン・スペシャルで長年同窓会の仕事と一緒にしてきた保坂さんと初めて仕事をさせて頂きました。同じ会社において、何年も同窓会の仕事をしてながらこの番組のお陰で新たな繋がりが発見できたことは私の宝です。

放送が終わった後で保坂さんから温かいお礼のメールを頂きました。その時書いたご返事のメールを紹介させて頂きます。

「保坂健二様

改めて「オールナイトニッポン高橋幸宏さんを偲

んで」の放送をありがとうございました。

このような形で初めて保坂さんと一緒に番組を作ることが出来たのは幸宏さんには申し訳ないけれどもとても嬉しいことでした。同じ会社においても部署が同じになった事もなく、僕はすぐに異動してしまったので制作的な話をした事ありませんでしたね。保坂さんが放送委員だったことも高橋幸宏のオールナイトを聴いてくれた事も知りませんでした。メールにあったようにまさに小学校の同窓会からの縁が作った番組となった訳ですね。

本当に人生は面白いものです。

あの放送を機会に人生とは人との繋がりだということを知らされました。70歳を過ぎたジジイが今頃何を言っているんだと笑われますよね。

しかし、あの番組のお陰でいろいろな事に気付かされました。保坂さんの番組にかける愛情が多くの人を惹きつけたのだと思います。

この経験で学んだ「人生は人との繋がり」という事をこれからの仕事に活かせるようにまだまだ少し仕事を続けてみます。本当にありがとうございました。

幸宏さんのご冥福を祈りつつ。

PS: 先日トシさんに電話をして久しぶりにいろいろと思い出話をしました。景山民生さんが天国で「バカやろー！」と叫んでいるでしょう。」

さて、この原稿の最後になりますが、皆様もご存知の様に YMO で世界的なヒットを高橋幸宏さんと一緒に作り上げた日本が誇る音楽家、坂本龍一さんが彼の後を追うように亡くなられました。同世代の優秀な音楽家が去ってゆくのは辛いものがあります。幸宏さんと番組を始めたのは「夢のある音楽を届けたい」そんな気持ちがあったからだと思います。世界中で戦争と酷い犯罪が続く今だからこそ人の心を救う音楽が必要なのだと痛感しています。

附属小金井小学校の近況について

副校長 塚本 博則

本校の教育目標は、「明るく思いやりのある子」、「強くたくましい子」、「深く考える子」の3点です。今年度は「強くたくましい子」を重点目標に設定し、コロナ禍で希薄になった人とのかかわり合いを重視し、体験活動の機会を多く設定する中で、その具現化に努めています。

新型コロナウイルス感染症については、5月8日に5類へ移行後、おおむねコロナ禍前の対応に戻りました。しかし、新型コロナウイルス感染症が収束したわけではないので、換気や手洗いなどの有効な対策は継続しています。

基幹の教育活動に位置づけている宿泊行事は、従来の形に戻して実施しています。5月から6月にかけて、5年生（4泊5日）と4年生（3泊4日）の一字荘生活、6月下旬には3年生（2泊3日）の至楽荘生活を行いました。一字荘生活では、コロナ禍では中止していた千代田湖キャンプ場での火起こしと食事作り活動を復活させました。4年生は、フランクフルトソーセージを焼いたり、お湯を沸かしてインスタント味噌汁を作ったりしました。5年生は、野菜を切るところから始め、豚汁を作りました。火を起すことに苦労していたグループもありましたが、学校では味わえない貴重な体験をすることができました。

7月下旬には、5・6年生の至楽荘生活を実施します。現在、子どもたちは大学の深いプールで遠泳に向けた練習に励んでいます。順調にいけば、久しぶりに鵜原湾に「エイ、コーラ！」のかけ声が響き渡ることでしょう。

本校は「Microsoft Showcase School 2022-2023」に認定されました。これは教育ICT先進校が認定されるプログラムで、2021-2022に続

いての認定となりました。ICTを教育現場に有効的に導入していき、学校教育やその運営、教職員の職場環境や働き方の改善を目指した先端的な取り組みにチャレンジしています。

昨年度より始まった本校舎の改修工事は、東側1/3が新たに完成し、1階には3年教室、2階には5年教室、3階には2つの音楽室ができあがり、快適に生活しています。今年度は本校舎中央部分の工事が行われ、玄関や職員室、事務室等が移動します。予算が限られているため、プレハブ校舎を建てることができず、空き教室や大学の建物を使つての工事となります。改修後は、オンライン配信室やムービースタジオ、ICTグループ学習室、ヒーリングスペースを備えた保健室等が整備される予定です。

撫子の会の皆様には、日頃より母校に対して多くのご支援をいただいております。心より感謝申し上げます。今年度の撫子の会総会は、11月11日（土）に母校で開催されると伺いました。当日は体育館で「なでしこ展覧会」も開催中ですので、ぜひ本校にいらしていただければと存じます。また、新しい校舎もご覧ください。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

【復活した食事作り活動（5年：豚汁作り）】



新たな事業のはじまりと 同窓会の今後について

「撫子の会」会長 野久尾 悟(小金井昭和 51 年卒)

皆さまお元気でお過ごしでしょうか。今年に入って感染症拡大もようやく落ち着き、人びとの気持ちは外へ、いままで我慢していたことへの再チャレンジへとポジティブな方向に向かいつつあります。イベントの復活や観光地の賑わいを目にすると少し安心します。しかし一方で、この抑え込まれた2年間で決定的に各々の行動パターンやその思考パターンも変わってしまっているように感じます。いずれにせよ想定外の状況から新たに歩み出した皆さまお一人お一人のご多幸をお祈りしています。

撫子の会理事会も試行錯誤を繰り返しながら、新たに進むべき方向を模索し続けてまいりました。3月によりやく理事会のリアル開催を復活させ、同時に理事の方々のリモート参加も引き続き可能としました。ハイブリット型だからこそ誰もが参加しやすくなるとともに、リアルの復活によって、思わぬ発想やアイデアも生まれてくるものです(主に理事会後の懇親会での生まれるパターンが多いとの指摘もあります)。

昨年のリモート同窓会総会の際に上映いたしました「池袋西口公園～豊島小学校の跡を歩く～」は、理事会で企画し、資料を収集、現場での取材・撮影を行いました。すべては、春日部たすく氏の一枚の絵を大鹿理事が発見されたことから始まりました(詳細は、会報23号に掲載済)。そして、今回は「追分編」、その次は「小金井編」の制作へと期待が膨らみます。アイデア出しも理事会の限られたメンバーだけではなく同窓会全体から募ってはどうか。しかもそれをライブ中継で行っ

た方がより多くのアイデアが生まれるだろう、と夢が膨らんでいます。どこまでできるかわかりません。失敗に終わるかもしれません。でも、まずは何でもやってみなければ、新たな展開は生まれません。

ということで今年11月開催予定の“ぶらり同窓会”は、皆さんと一緒に考える企画会議になりそうです。

合わせて、母校の倉庫から豊島修練会の横山先生が発掘された追分校の8mmフィルム映像も現在、修復・デジタル化作業を専門業者に発注いたしました。ぶらり同窓会の際には皆さまに御覧いただけたと思います。さて、どんな映像が残されていたのか。興味深いですね。

さらに理事会は、前進を続けてまいります。以前にもお話いたしました、母校の資料収集・保管を行うアーカイブ事業を、母校だけでなく豊島修練会や学芸大学大学史資料室とも積極的な意見交換を行っており、今後の事業の進め方も一緒に検討できる基盤作りを開始しています。

こうした様々な事業の推進が皆さまとの絆を更に深めていくことになり、何かの気づきにつながり、そして、新しいことを生み出していく。そんな大きな流れが創り出せたらよいと考えています。

ただ立ち止まって、待っているだけでは、楽しいことには出会えない。そう、同窓会は動き続けていきます。変らぬご理解ご支援を賜れば幸いです。

【ご案内】施設利用情報

「至楽荘」「一字荘」へ宿泊できます！

附属小学校での思い出が詰まった「至楽荘」「一字荘」に同窓生も宿泊することができます（宿泊期間の限定あり）。是非、同期会・クラス会でのご利用も含め、ご活用ください。

○ 利用料金について

一泊二食付が基本料金です。昼食も別途用意可能。

	1泊2食付き
大人（中学生以上）	6,110円
小学生	5,010円
3歳以上の未就学児	4,460円

（消費税10%込み）

○ 申込方法について

宿泊を希望される方は、まず豊島修練会事務局に連絡をしてください。その後、宿泊希望の2週間前までに公益財団法人豊島修練会ホームページよりお申込みください。

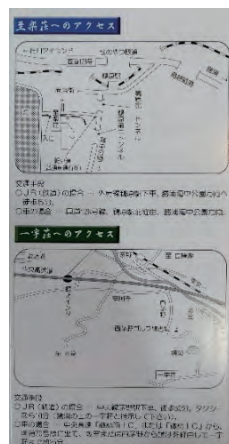
※詳しくは、豊島修練会にお問合せください。

豊島修練会：

〒203-0014 東京都東久留米市東本町8-14
（成美教育文化会館内） Tel.042-471-6600

至楽荘：〒299-5243 千葉県勝浦市鶴原920
Tel.0470-76-2791

一字荘：〒391-0013 長野県茅野市宮川6631-6
Tel.0266-72-4177



「学芸大学の大学史資料室」に思い出の資料が保管されました。

2012年に東京学芸大学に大学史資料室が開設され、本学の歴史や教育・研究活動等に関する各種資料の収集・保存・閲覧・調査研究等を行っています。附属小学校からも学報「なでしこ」など様々な資料の移管が行われています。常設展示等も行われていますので、是非のぞいてみてください。

※所蔵資料を利用（閲覧・複写等）される際には事前の予約手続きが必要です。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

大学史資料室：

東京学芸大学・附属図書館3階

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1

<https://www.u-gakugei.ac.jp/shiryoshitsu>

shiryou@u-gakugei.ac.jp



※今後、撫子の会は、大学史資料室、豊島修練会と連携して、アーカイブ資料の収集・保存等を積極的に推進してまいります。

数字で読み解く撫子の会の現状について

(1) 新入会員の入会者数と会報の発送部数について

(単位:人)

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
新入会員数	102	104	98	92	101	91
会報発送部数	7,761	7,796	7,652	7,510	7,315	7,256

※ 各学年3クラス制、1クラス当たりの最大人数が35名になってから90～105名の新入会員数で推移。

※ 会報送付数については新入会員が増加要因、前年宛先見当たらず不着となった方や、お亡くなりになった方が減少要因。

※ 2020年から「会員属性変更依頼書」等を活用した既存会員情報の収集を強化したことで会報の戻りが減少。

(2) ご寄付金の推移について

(単位:円)

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
ご寄付金総額	1,142,375	693,204	1,631,663	808,680	859,221

※ 毎年、温かい志を頂いています。この場をお借りして御礼申し上げます。

※ 2018年は前年の会報で母校の厳しい現状について語る座談会の模様及び寄付者一覧を掲載、2020年度は母校創立110周年の記念事業に対する資金協力の呼びかけもあって、通常年よりも多くの寄付金が集まった。

(3) 総登録数と会報送付数、公式会員専用サイトMiiT+登録者数とそれぞれ各校出身者の内訳について

(単位:人)

	総登録数	会報送付数	うちMiiT+
豊島	3,408	1,314	7
追分	1,545	724	3
小金井	8,818	5,084	126
豊島高等科	154	48	0
恩師	102	86	1
合計	14,027	7,256	137

※ 総登録数とは逝去・退会・不明などを含む全登録者数。会報送付数は紙又はPDFの会報を送る先数。

※ 公式会員専用サイトMiiT+(ミータス)へのご登録数はまだまだ会報送付数の2%弱。皆さまの登録ご協力をお願いします。

(4) 年代別の分布について

(単位:人)

年代	総登録数	会報送付数
101歳以上	114	1
91歳以上100歳以下	1,272	384
81歳以上90歳以下	1,806	829
71歳以上80歳以下	2,089	943
61歳以上70歳以下	1,618	698
51歳以上60歳以下	1,585	728
41歳以上50歳以下	1,522	748
31歳以上40歳以下	1,541	887
21歳以上30歳以下	1,560	1,188
20歳以下	818	764
不明(恩師)	102	86
合計	14,027	7,256

※ 20歳台までは、進学・就職に伴う転居の機会等が比較的少ないと思われ会報不着が少ない。

※ 今後も個人情報の取扱いには、十分気をつけてまいります。

収支決算報告

2022年度 (2022年4月1日～2023年3月31日)

A. 収入の部

科目	金額
・前年度繰越金	14,193,182
・入会金	880,000
※ 2023年3月卒業入会者 / 88名	
・寄付金	859,221
・受取利息	20
合計	15,932,423

注1) 新聞社豊島写真利用料 / 55,000円

注2) 名簿整理料金 / 40,370円

オンライン用設備投資(カメラ・集音機・ケーブル・スタンド) / 63,652円

B. 支出の部

科目	金額
・会報23号印刷・郵送費	1,390,961
・総会懇親会費	30,000
・HP維持費 注1)	99,660
・事務費 注2)	107,482
・卒業証書フォルダー寄付	122,408
・次年度繰越金	14,181,912
合計	15,932,423

※ 監査報告：監査の結果、本収支決算報告は、当会の決算を適正に表示しているものと認めます。

撫子の会公式会員専用サイト登録のお願い

「撫子の会」は、①リアルタイムな情報提供、②会員ご本人による簡単に確実な会員情報の更新、③ペーパーレス化の促進などの目的を実現するため、「撫子の会・公式会員専用サイト」を設置しています。主な掲載情報は、①最新の会報および過去の会報アーカイブ、②学校・会員・恩師の皆様に関する最新情報、③イベント情報及びカレンダー、④フォトギャラリーなどです。同会員専用サイトを閲覧するためには、会員登録が必要です。会員の皆様におかれましては、ぜひともご登録ください。

【会員登録手順について】

※詳しい登録手順は、「公式ポータルサイト」に掲載の「撫子の会・公式会員専用サイト登録マニュアル」をご覧ください。

URL : http://www.nadeshikonokai.jp/images/miitus_manual.pdf

- (1) 右のQRコードを読み取るか、またはブラウザアドレスバーに
< <https://miitus.jp/t/nadeshikonokai/> >と入力してログイン画面を呼び出す
- (2) 「新規入会登録」を押して入会登録フォームへ。
- (3) 氏名とメールアドレスを入力して「送信」ボタンを押す。事務局よりメールが配信されます。
- (4) メールに記載されたURLにアクセスし、入会登録申請手続きを行います。
- (5) 登録申請フォームに必要情報を記入し、申請を行ってください。
- (6) 数日後、事務局より入会承認メールが届きます。届き次第、表示された団体ページURLにアクセスすると、公式会員専用サイトにログイン可能になります。
- (7) 登録したメールアドレス、パスワードを入力してログインしてください。
- (8) ログインしたら登録名を確認し、右上の「マイページ」ボタンを押してください。
- (9) 自身のマイページに登録した情報が反映されます。
- (10) 登録情報に変更があった場合は、「マイページメニュー」から各種会員情報が変更できます。

【本件に関するお問い合わせ】

撫子の会お問合せメールアドレス：nadeshikonokai@gmail.com



運営メンバー募集のお知らせ

私たちと一緒に「撫子の会」を盛り上げませんか？

同じ学び舎で学んだ同窓生同士、多彩な年齢層、経歴の方々がボランティアで支えています。母校への恩返し、社会貢献活動の一環として、ぜひ皆さんの力を貸していただけませんか？

撫子の会の主な活動は、会報の制作や総会・ぶらり同窓会の開催、HPの運用、会員名簿管理などです。また現在、様々な母校の記録や記憶を、後世に引き継ぐためのアーカイブ事業や、母校の現役生徒の皆さんや先生方を支える等、新たな取り組みにチャレンジしています。

興味のある方は、氏名・卒業校・卒業年次・現住所を明記の上、メールにてご連絡ください。ご連絡を心からお待ちしています。

同期会報告が届きました！

小金井昭和 55 年度卒業生の同期会が開催されました。SNS でやり取りしてクラス横断で集まりました。会場は、同窓会の先輩が経営されている吉祥寺のお店を使用させていただきました。



会員属性変更についてのお願い

会報の発行に並ぶ「撫子の会」の重要な事業・役割のひとつが皆様の会員情報の管理です。皆さまに確実に会報をお届けするためにも、会員情報に訂正・変更などがありましたら、同封の「登録情報変更依頼書」によりお知らせください。詳しい記載方法、届け出方法は同依頼書の説明欄をご参照ください。

なお、公式会員専用サイトの「マイページ」で会員情報を変更された方は、同依頼書による変更の必要はありません。

また、皆様から頂いた属性変更が、次号の会報送付に反映される締め切りは、毎年度末(3月末日)到着分までとします。

皆さまのご寄稿をお待ちしています！

皆さんと創る会報を目指しています。クラス会や同窓の仲間の集い、伝え残しておきたい母校の思い出話など何でも結構です。また会報に対するご感想やご意見もお待ちしております。「会報寄

稿」「会報掲載希望」を明記の上、巻末の同窓会事務局までお申し出ください。

ご寄付のお願い

「撫子の会」の運営は、主に小学校卒業時の新入会員からの入会金と、皆さまからのご寄付でまかなわれています。昨年度も皆様からの温かいご寄付を賜りましたこと、心から御礼申し上げます。

一方でご承知の通り、大学の国立大学法人化のあおりを受け、附属学校は年々予算が削減され、生徒数も削減されており、その結果、当会の入会金収入も従前に比べ 35% もの減収となっています。本年度も当会の運営財源はもちろんのこと、母校の現役生の皆さんへの支援金につきましても、皆さまからのご寄付へのご協力を心よりお待ちしております。

ご寄付にあたりましては、同封のゆうちょ銀行「払込取扱票」をご利用ください。

.....

撫子の会 会報 24 号

発行 2023(R5)年10月

発行責任者 野久尾 悟

印刷 (株) クラシブ

●投稿寄稿の送付・お問合せ先

メール：nadeshikonokai@gmail.com

郵送は、下記の同窓会事務局まで

担当：野久尾 悟

●同窓会事務局

東京学芸大学附属小金井小学校内

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1

●撫子の会郵便振替口座

00100-8-709121

加入者名：撫子の会